

野菜の令和6年度に向けた「高温・少雨時の技術対策」について

令和6年2月28日

園芸振興課

令和5年度の野菜は、記録的な高温・少雨により、生育不良や品質低下がみられ収量が減少しました。令和6年度においても、同様な気象条件となることも考えられることから、高温期になってから対応する技術に加え、排水対策や深耕など野菜の作付前に対応すべき技術の励行をお願いいたします。

【共通事項】

- 大雨による根傷みを回避し、高温・少雨による被害を軽減するための排水対策を行う。
- 根が土中にしっかり張るように深く耕起するのに加え、堆肥などの有機物を投入し保水性を向上させる。

【えだまめ】

(1) 畝間かん水等の実施（開花期後）

- 暗きよの栓を閉めて、土壌中の水分の保持に努める。
- えだまめは、開花期～子実肥大期にかけて最も水分を必要とする時期であり、畝間かん水や明きよへのかん水、地下かんがいシステムなどにより干ばつ防止に努める。

(2) 病害虫防除の徹底

- 高温年はダイズサヤマバエ等の害虫の発生が多くなることから、中晩生品種では開花日10日後頃に1回、晩生品種では開花日7日後頃および14日頃の2回防除を行う。

【ねぎ】

(1) 植え付け深さ

- 根がしっかり張れるほか、高い土寄せができるように深耕する。
- 植え付けの深さは、湿害と干ばつ害を回避するために地表面から15cm程度とし、深くしすぎない。

(2) 活着の促進

- 定植後、長期間、雨が降らないと予想される場合は、活着を促すために株元にかん水する。

(3) 高温時の土寄せの見合わせ

- 根傷みを助長し、葉や葉鞘の光合成部位を土で覆うことになる土寄せを見合わせる。

(4) 病虫害防除の徹底

- 高温年はネギアザミウマやネギハモグリバエなど害虫の発生が多くなり、発生時期が長引くことから、発生初期からの防除に加え、後半まで防除を継続する。

【その他の野菜】

(1) 適切なかん水、換気、遮光等による品質確保

- かん水は、早朝または夕方の涼しい時間帯に行う。かん水する場合は、停滞水が無いように注意する。
- 施設野菜では、天窓及び施設側面の開放や換気扇の活用により十分な換気に努めるとともに、寒冷紗等の被覆資材により遮光・遮熱し、施設内温度の上昇を防ぐ。
- 敷きわら等により、土壌表面からの水分蒸発と地温上昇の防止に努める。
- 収穫は、気温の低い時間帯に行い、速やかに調製・出荷するか、予冷庫に入れるなど、高温による品質低下の防止に努める。

(2) 病虫害防除の徹底

- 高温乾燥時は、ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類等の害虫が発生しやすいので、発生動向に十分注意し適期防除に努める。